

## 会 議 録

会議名 (審議会等名)	平成30年度 第2回相模原市地域福祉推進協議会				
事務局 (担当課)	健康福祉局 福祉部 地域福祉課 電話 042-769-9222(直通)				
開催日時	平成30年8月20日(月)午後2時15分~午後4時				
開催場所	相模原市民会館2階 第2中会議室				
出席者	委員	11人(別紙のとおり)			
	その他	2人(市社会福祉協議会職員)			
	事務局	6人(福祉部長、地域福祉課長他4人)			
公開の可否	可	不可	一部不可	傍聴者数	0人
公開不可・一部不可の場合は、その理由					
会議次第	1 開 会 2 議 題 (1) 第3期相模原市地域福祉計画の進捗状況について 3 その他 4 閉 会				

## 審 議 経 過

主な内容は次のとおり。( は委員の発言、 は事務局等の発言)

### 1 開会

### 2 議題

#### ( 1 ) 第 3 期相模原市地域福祉計画の進捗状況について

資料に基づき、事務局から第 3 期相模原市地域福祉計画の進捗状況について、説明を行った。

平成 2 9 年度の実施状況報告について確認する。基本的に数字の多い少ないで実施状況を表していると理解した。件数が増えたからといって福祉の質が上がっているのか。幸せになっているのか。問題は福祉の質であって、講習会を何回開いたのか、何人参加したのかということではない。

一番大事な指標の基準値についてだが、資料 1 の 2 ページ「市民の福祉サービスへの満足度」8 . 1 %という数字は、H 2 6 の市政に関する世論調査対象者 3 千人の半分の 1 , 5 0 0 人程度から集めたもので、更に 5 0 歳以上が 6 0 %を占めている。実際の質問は、「福祉サービスや福祉に関する情報提供の満足度はどれくらいか」というものであり、情報提供の仕方に満足しているかという質問ではないか。

目標に使っている数字は市政に関する世論調査の結果を用いている。

それは市民の福祉の満足度か。

第 3 期の計画の目標数値は、第 2 期の計画から引き継いでいる。第 3 期の計画の策定の際、当協議会でも議論しており、この項目についてはそのまま引継がれているものである。

質問は「福祉の情報提供」について聞いているものであるので、見直したほうがよいのではないか。

第 3 期の数字は、平成 2 5 年度から平成 2 6 年度の間に議論を重ねた中で作られたもの。次の第 4 期の計画策定の中では変更できるよう指標を検討していただきたい。

質問の中身と指標の意味が違っているのではないか。

質問では、福祉サービスと福祉に関する情報提供に関することを聞いている。それはまったく違う。「誰もが福祉～充実します。」という目標に対して情報提供が不満ですという満足度 8 . 1 %。まったく基準となる数字の意味が違う。

前回の計画策定時の議論の中で設定された数字。途中で変えるのは難しい。次期計画の策定においては、この指標は見直したほうが良い。

市民の福祉の満足度を捕らえていない。色々な子育てサービス、高齢者福祉、

障害者福祉の具体的な項目を出さないと本当の満足度は出せない。

第4期の計画策定に当たっては、実施計画のためのアンケート調査を行うため、意見をふまえて調査した内容が反映されているような新たな目標を設定していきたい。

福祉の分野に限らず、担当所管課で地域福祉の推進を行っている。行政で横断的にこれについて所管課が集まって検討する組織があるのか。目標達成とかについて議論する場はあるのか。

庁内の地域福祉計画連絡会議、34の所管課で行っている。

福祉サービスの満足度は本当に相模原市全体で8%なのか。アンケートとか調査は、質問とか設定の仕方で数字が変わってくる。実感として、あまりにも低い。これだけ多岐にわたって地域福祉サービスをやっていることが、市民はわからないのではないか。相模原市の福祉関係に関わっている私でもこういうことも含めて地域福祉なのだ気づかされた。知らないことが多い。

それから、ボランティアの登録数をいるかバンクの登録数だけで指標とするのはおかしいのではないか。社協が全てではない。いるかバンクだけではなく他のボランティアも多数ある。指標のとり方を工夫しないといけないのではないか。

成果指標、補助指標は現行計画の中で位置付けているので、今回はやむを得ない。ただ、成果指標の設定は非常に難しく、なかなか良いものがない。次の計画のときはぜひこの協議会の中でいろんなアイデアをいただいてやっていきたい。わかりやすいものにしていくことは必要である。

委員の発言のとおり、今回は量的な評価に特化してしまった感じはある。これを補うような質の評価ができるようなものを検討させていただく。福祉に関わっている人は分かるが、関わっていない人にもどのように福祉のことを伝えていくかわかるようにしていくのが今後の一番の課題。福祉に携わっていない方にも伝えていけるような方法を検討したい。

一般市民は福祉について知らない人が多い。もっと福祉について分かるように広めていただきたい。小さな範囲で小さな問題を解決できるようなグループが必要ではないか。

サロンという形の中でも、お話のように地域の中でも小集団で行っているようなものもたくさんある。行政が社協と協力してそういうものを発見していくことで数が増えていくことが大事だと考える。

相模原ボランティア協会では、旧相模原市内で大きな事業を2つ実施している。歩行困難の方の移送サービス、在宅高齢者の傾聴活動を行っている。傾聴活動は講習を開くと関心が多く受講生がたくさん集まるが、在宅の高齢者が家に来てもらうことをあまり好まず、利用者が少ない。一方で、移送サービスは、廉価で提

供していることもあり利用者が非常に多い。しかし、実際に担っていく運転ボランティアが足りない現状がある。痛しかゆしの状況である。運転ボランティアの養成講座をやっているが年々受講生が減っている。

指標について正確かどうか。市民の皆さんが福祉に満足しているかどうかをこの指標で捉えるのは不可能だと思う。満足度は数値至上主義みたいなところがある。以前は、計画にはあまり数字を掲載していなかったが、成果が求められるに連れて数字を出すようになった。市内を網羅して調査するのは市政の世論調査以外にない。目標を設定して、そこにどのくらい近づいてきたのかが大事。基準値 8.1%から31年度までに10.8%にする。この差、この2%が大事。この世論調査はずっと前からやっているから、同じ事を聞いているため、ある日突然変えてしまうことが出来ないのではないか。福祉の方でこれをどう使っていくかの問題はあるが、他の部署ではおそらくまたこの聞き方をする。経過を見ることが大事であって本当に努力をしたのかどうか大事。反省すべき点もあるが、間違っているかどうかは言い切れない。

委員さんがおっしゃるのはもっともで、疑問に思うこともある。福祉サービスはあまりにも広すぎて、市民一人ひとりの福祉の考え方、捉え方は全然別で、それに関して行政のほうからの問いかける案件が、十分に市民が納得するような問いかけをしていないとその数値は現実にあっているのかなと、疑問を持つ。しかし、私はこういう書類は数値ありきのところがあるのかなと思う。市民の方が数値で見て、こんなものか、これなんなのという疑問を生ませるのまで必要だし、その数値の真実を行政が裏づけを持っていればいいのかなと思う。また、話は変わるが、コミュニティソーシャルワーカーの話もあったが、このところでも数値がかなり出ているが、コミュニティソーシャルワーカーは地域の中で相談も受けているが、このほかに民生委員や自治会の方が受けて解決できていることもある。そういうところの数字はあがってこない。数値の本質的なところもあるけれど、その裏にはいろんな要素があるということを明確に入れておく必要がある。行政は、市民に説明する説明責任がある。

今の意見を受けて、やっぱり相模原市の福祉サービスに対する市民の本当の気持ち、本当の満足度、市政の世論調査で同じ質問を毎年やるという単純な考えが間違いであって、福祉に特化したきちんとした福祉サービスの満足度を調査する聞き方をもっと前にやっておくべきだったと思う。子育て支援、障害者、高齢者等それぞれ、本当の声を引っ張ってこようと思えばいくらでも引っ張り方がある。そういうところの実態を引っ張ってこないと本当の満足度は分からない。高齢者ばかりじゃないし、若い子育て世代も大事な福祉サービスを受けなければいけない人たちだし、そういう人の声を満遍なく把握できるような状況調査を考えな

いとダメ。今の相模原市の本当の福祉の実態の満足度はこんなものだよということ、計画を立てる前につかまないといけない。

今後、次期計画を作る中では、アンケート調査でやったり、各区で説明会をやったり、福祉の量的な指標と質的な指標、両方を指標にする必要がある。量的な指標を補う部分で、制度を利用した人のアンケートや満足度の声を拾えるような、質的なものをひろえるような手法を考えていかなければいけない。さきほどもあったように、なかなか指標を変えるのは難しいが、次の計画ではどの指標を使うか、市政に関する世論調査だけを使わなくてもいい。色々なことを考えて進めさせていただく。

満足度は非常に難しい。同じ専門機関から支援を受けたAさんとBさんで評価がまったく違うことがありうる。

福祉サービスの設問がどうなのかと思う。福祉サービスとは行政からのサービスのことしか考えていないのではないか。コミュニティソーシャルワーカーもそうだし、コミュニティ形成事業も全部福祉サービスである。市の福祉行政である。だから、設問を分かりやすくすれば結果は違ってくるのではないか。一生懸命やっている取り組みの目標を10.8%におくのは、悲しく感じる。別の目標になるが、基本目標1「民生委員が活動している機関・団体とのつながりが少ないと思う」割合が30%では少ないのではないのか。私たちは、団体との繋がりがもっと少ないと不満に思っている。30%まで目標をおくのはすごい努力目標だと思う。30%まで思えるような連携を取れるような地域が出来ていれば、もっと福祉の満足度が高くなっていくのではないかと思う。

実績についてお聞きする。障害福祉指導監査の体制について資料17ページの社会福祉法人等への指導監査の実施は、なぜ、H29年度とH30年度では監査対象法人の数が大幅に減っているのか。また、第三者評価の普及について。第三者評価は、けっこうお金がかかる。H29年度に受審しましたとなっているがどのくらい相模原市では実績があるのか。

指導監査に関しては、法令にのっとって最低基準に合致しているかどうかの判断を行う。3年に1回、5年に1回の周期がある。単純に年を比べると、差があると思う。法人の場合、実施指導は、集団指導と個別指導があるが、現状、相模原市の障害者福祉の部分で個別指導が完璧にできているかというところできていない部分があると思う。今後は通所のサービスを対象とした個別指導、障害政策課の職員が事業所に赴いて、一緒になって、どうしたらサービスの向上につなげていけるのか話し合いをすることが個別指導だと思う。今後は個別指導の方も力を入れていかなければいけない。集団指導をやったからといってOKだとは思っていないところである。第三者評価の数については、それぞれの分

野でやっているため、正確な数字を把握していない。

コミュニティソーシャルワーカーの配置による横断的な支援、事前に送ってもらった資料をみて、相談事例として、誰から、どんな相談で、どんな対応という3段階で示していただいているが、どこかに紹介してどこかにつないだら終わりという仕事ではあるのだと思うが、その結果どうなったかというところがちょっと見えない。訪問して様子を伺った、その結果どうなったかということまで追跡する必要があるのではないか。

さきほど、数値の話で議論されたが、手段が目的になっているのではないか。何箇所開設しました、何人相談を受けたか。本来の目的は手段ではなくてその次にあると思う。そういう視点で加えていけばいいのではないか。資料1の13ページ生活保護受給者への無料職業紹介の実施。就職者数89人。これだけ結果として示されているが、では、この中で生活保護を脱却した人はどれだけいるか。職業を紹介されるとある程度の収入を得るが、生活保護でなくなった人はどのくらいいるか。そんな視点で数値を示せばいいのではないか。

生活保護に関しては、この中で生活保護が廃止になった人と生活保護費が減額になった人の割合。そういうことは把握しているので、今後は掲載するようにしたい。

職業を紹介するということは、保護費を減額するとか生活保護を廃止するということで、これが目的である。相談は手段であって、それにとどまらずにその結果の数値を示す方がよりわかりやすい。

コミュニティソーシャルワーカーの相談事例は、ご連絡をいただいて、介護保険の認定を受けてサービスにつながって終結する方もいるが、多くの方は、民生委員と連携して、関係を作ってからサービスにつなげていく方が多い。経過を観察している方が多い。今後関係を作れるようになれば、皆様にその後のこともお伝えできるかと思う。

また、コミュニティソーシャルワーカーの個別支援人数の表にその他の部分が多いのは、対象の方が障害の認定を受けていない方が多く、もしかしたら精神疾患や認知症ではないかということで最初のところは、その他に入れさせていただいている。

コミュニティソーシャルワーカーは制度のはざまにいる方を対象としているのでその他が多くてもいいのではないかと思う。そうではない人は、障害者のところでは計画相談が今しっかりと計画相談所が出来ていて、計画相談員が精神疾患の方のゴミ屋敷状態の場所を把握して、相模原市に連絡して一緒に片付ける、そうすると隣の高齢者のお宅ももっと汚いことがわかり、今度は高齢者を支援する人たちがきてきれいになる。そういう支援の繋がりがうまくいけば支援してもら

えるが、制度のはざまの方を対象とするのがコミュニティソーシャルワーカーの役割なので、その他が多いのも当然かと思う。中身もしっかり書かれていて、精神疾患の場合は、障害の手帳をもって、いろんな制度を使えることを知らない方が多い。精神疾患の方が相談に行くのも当然かと思う。

### 3・その他

本日の議題以外で第3期地域福祉計画に位置付けられた事業について質疑応答を行うとともに、事務局より相模原市地域福祉推進協議会の委員の数の改正について説明した。

福祉計画の1補助指標さがみはら地域福祉ネットワークの登録時業者数で、29年度21事業所から31年度目標200事業所ということで、これは力をいれていくということか。

このネットワークの内容なら、どこの施設でも誰かできそうなこと。これは宣伝活動も少し問題なのでは。これから、ネットワークは大事なので、障害福祉サービスで60事業所あるので、声をかければみんなやってくれるので、ぜひ200事業所達成していければいいなと思う。

高齢者の介護が問題になっている中で、親を面倒見る男性の介護だとか、介護のために離職した人が増えている。また離職によって生活困窮に陥っているケースもある。そういう方に対しての支援が必要になっている。そういう方たちが介護施設で職を得ることができるよう、施設に対しての市の対応はできないか。

ふれあいサロンがたくさん出来ているが、地域の人に紹介しても、遠くていけないという声がある。空き家とか小学校の空き教室とかを市が提供してくれないか。そういう場所が増えれば、家にこもっている人が減って、医療費の削減にもなるのではないか。

退職教職員等を市で登録して、有資格者をボランティアの人材として活用してみてはどうか。

児童館は市内に多いが、名前を変えて、これからは老人が増えるので、皆が使える施設にならないか。

このような内容は今日的な課題である。介護のための離職者の再就職の支援、サロンだけでなく、いろんな居場所の必要性、潜在有資格者の人材の掘り出し。ニーズを踏まえながら、再就職支援等、いろいろな意見を聞きながら取り組んでいく必要がある。場所と人の問題はついて回るが、今後も検討は必要。児童館については、現在も空いているときは自治会等でも利用している。

児童館という名前があるとその他の人が利用しにくい現状がある。活用できることを広く広めていく必要がある。

市の色々な計画との連携も地域福祉計画の大きな方向性の一つと思う。今ご指摘いただいたことについて、できることはやっていき、できないところは草の根運動のところで地域の皆様で進めていただく。また行政と地域の皆様と一緒にやって行くなど、いろいろな方法を考えたいと思う。

コミュニティソーシャルワーカーの支援の中で高齢者の問題が多いと書いてあるが、どういう問題があるか。私たちがお手伝いできることがあるのではないかなと思う。

高齢の方がどういう課題を持っているかなど、次はもう少しわかりやすく資料を作らせていただきたい。

地区に支援が必要な方がいたらお手伝いしたい。他にもやりたい方はたくさんいると思う。そういう人たちを活用して行ってほしい。

コミュニティソーシャルワーカーは地域にある課題を把握し、地域の皆さんにお伝えしてどんな支援ができるか一緒に検討していきたいというところから始まっている。ぜひ課題を皆さんにお伝えしていければと考えている。

いきいきサロンは行政が作るものではなく、私達が地域でこういうものがあればいいということで何人かで集まって作っている。場所は、歩いて5分でいけるような自治会館を借りている。気持ちがある人の集まりでやっている。サロンの数が400という目標はどのような風に設定しているのか。各自治会でいくつもある。もっと気楽にやっていくものだと思う。

サロン活動はとても活発におこなわれている。行政には場所の提供をもっと考えていただきたい。

場所に関しては、地域の工夫が必要。自宅開放型もあり、会社の社員食堂を借りるなどやっているところもある。地域が工夫していくことも必要。

こういう専門の知見のある方が構成員になるということが、法的に定められているのか。

国の再犯防止推進計画や成年後見制度利用促進基本計画策定の際、こういった方々が構成員になっていた。成年後見制度の利用に関してバックアップしている方が全国的に見ると弁護士と司法書士が多い。また、地域においては、保護司が罪を犯した人の支援をおこなっている、県社会福祉士会は神奈川県から委託を受けて刑務所からの出所者を地域に移行することを支援する活動を行っている。そのため、この4名の方をお願いをしたいと考えている。

新たに盛り込む内容の中に、「市町村は地域生活課題の解決に資する支援が包括的に提供される体制を整備するよう努める」とし、また、居住に課題を抱える者への横断的な支援のあり方とある。今、地域では空き家が問題になっている。空き家が地域福祉とどういうふうにつながるのか。法律の専門家が委員に入ればそ



のような話が出るのではと考える。

庁内体制の中で空き家対策を行っている部署があるため、空き家のことが地域福祉の鍵となっているところは、ぜひ話をさせていただきたい。今後どう絡めて行くのかは検討しないといけないところではある。

#### 4 その他

次回開催日は後日調整することになった。

#### 5 閉会

相模原市地域福祉推進協議会委員 出欠席名簿

	氏 名	所 属 等	備 考	出欠席
1	小野 敏明	特定非営利活動法人日本地域福祉研究所 田園調布学園大学名誉教授	会 長	出席
2	原 和教	相模原市高齢者福祉施設協議会		出席
3	鈴木 純恵	相模原市障害福祉事業所協会		出席
4	吉岡 輝明	相模原市私立保育園・認定こども園園長会		出席
5	戸塚 英明	社会福祉法人相模原市社会福祉協議会		出席
6	森川 哲郎	相模原市自治会連合会	副会長	出席
7	飯沼 守	相模原市地区社会福祉協議会		出席
8	原 裕子	相模原市民生委員児童委員協議会		出席
9	石関 清美	特定非営利活動法人相模原ボランティア協会		出席
10	渡辺 幸雄	公募市民		出席
11	箱山 京子	公募市民		出席